



S3X60 サーバノードハードウェア管理

- [Cisco UCS C3260 サーバー ノードの管理, on page 1](#)
- [サービス プロファイルからのサーバーのブート, on page 2](#)
- [サーバーの認識, on page 2](#)
- [サーバーの電源再投入, on page 3](#)
- [サーバーのシャットダウン, on page 4](#)
- [サーバーのハードリセットの実行, on page 4](#)
- [Cisco UCS C3260 サーバー ノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット, on page 6](#)
- [シャーシからのサーバーの削除, on page 8](#)
- [サーバーの稼働停止, on page 8](#)
- [サーバーの再稼動 \(9 ページ\)](#)
- [サーバーのロケータ LED の点灯, on page 9](#)
- [サーバーのロケータ LED の消灯, on page 10](#)
- [すべてのメモリ エラーのリセット, on page 11](#)
- [IPMI の出荷時のデフォルト設定へのリセット, on page 12](#)
- [サーバーの CIMC のリセット, on page 12](#)
- [サーバーの CMOS のリセット, on page 13](#)
- [KVM のリセット, on page 14](#)
- [サーバーからの NMI の発行, on page 14](#)
- [破損した BIOS のリカバリ, on page 15](#)
- [ヘルス LED アラーム \(16 ページ\)](#)

Cisco UCS C3260 サーバー ノードの管理

Cisco UCS Managerを使用して、Cisco UCS ドメインのCisco UCS C3260サーバー ノードすべてを管理およびモニターできます。電源状態の変更など一部のサーバー管理タスクは、サーバーおよびサービス プロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバー上でのみ実行できます。

シャーシ内のサーバー スロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害がCisco UCS Manager から提供されます。サーバー ミスマッチ エラーを解決し、そのスロット内のサーバーを再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

サービス プロファイルからのサーバーのブート

Before you begin

サービス プロファイルとサーバーまたはサーバー プールを関連付けます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織 サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power up	サービス プロファイルに関連付けられたサーバーをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたサーバーをブートして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power up
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

サーバーの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出するには、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスカバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# acknowledge server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバーを認識します。
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次の例では、シャーシ3のサーバー1を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

サーバーの電源再投入

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # cycle { cycle-immediate cycle-wait }	サーバー電源を再投入します。 サーバーの電源再投入をただちに開始するには、 cycle-immediate キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 cycle-wait キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ3のサーバー1の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # cycle cycle-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバーのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

Before you begin

サービス プロファイルとサーバーまたはサーバー プールを関連付けます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power down	サービス プロファイルに関連付けられたサーバーをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたサーバーをシャットダウンして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

サーバーのハードリセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムでグレースフルシャットダウンがサポートされていない場合、サーバ電源の再投入が行われます。サーバをリセットする前に Cisco UCS Manager にすべての管理

操作を完了させるオプションの場合、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



Note 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[リセット (Reset)] を使用しないでください。この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、[ブートサーバ (Boot Server)] アクションを選択します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset { hard-reset-immediate hard-reset-wait }	サーバーのハードリセットを実行します。 以下を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • サーバーのハードリセットをすぐに開始する hard-reset-immediate キーワード。 • 保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリセットが開始されるようにスケジュールするための hard-reset-wait キーワード。
ステップ 3	UCS-A /server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

Cisco UCS C3260 サーバノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット

Cisco UCS C3260 サーバノードを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。

次のガイドラインは、スクラブポリシーを使用する場合に Cisco UCS C3260 サーバノードに適用されます。

- Cisco UCS C3260 サーバノードでは、スクラブポリシーを使用してストレージを削除することはできません。
- Cisco UCS C3260 サーバノードでは、FlexFlash ドライブはサポートされていません。
- Cisco UCS C3260 サーバノードで行える操作は、スクラブポリシーを使用した BIOS のリセットのみです。



Important ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset factory-default [delete-flexflash-storage delete-storage [create-initial-storage-volumes]]	<p>サーバ設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンドオプションを使用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • factory-default : ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットします。 <p>Note この操作は BIOS をリセットします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • delete-flexflash-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します。

	Command or Action	Purpose
		<p>Note この操作は、Cisco UCS C3260 サーバノードではサポートされていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • delete-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します。 • create-initial-storage-volumes : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、すべてのディスクを初期状態に設定します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-flexflash-storage
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

シャーシからのサーバーの削除

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# remove server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバーを削除します。
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 3	シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバーハードウェアを取り外します。	サーバーハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『Cisco UCS Hardware Installation Guide』を参照してください。

Example

次の例では、シャーシ3のサーバー1を削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# remove server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

What to do next

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、Cisco UCS Managerにそのサーバを再検出させるために、スロットの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、[サーバーの認識, on page 2](#)を参照してください。

サーバーの稼働停止

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# decommission server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバーを解放します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次の例では、シャーシ3のサーバー1を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

サーバーの再稼働

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# recommission server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したサーバーを再稼働します。
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ3のサーバー1を再稼働し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# recommission server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

サーバーのロケータ LED の点灯

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server# enable locator-led [multi-master multi-slave]	サーバーのロケータ LED をオンにします。次のコマンドオプションは、Cisco

	Command or Action	Purpose
		UCS C3260 サーバ ノードには適用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスターノードのみに対して LED を点灯します。 • multi-slave : スレーブノードのみに対して LED を点灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 のロケータ LED を点灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # enable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 上でのみマスタ ノードのロケータ LED を点灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # enable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバーのロケータ LED の消灯

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # disable locator-led [multi-master multi-slave]	サーバーのロケータ LED をオフにします。次のコマンドオプションは、Cisco UCS C3260 サーバ ノードには適用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスターノードのみに対して LED を消灯します。

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> • multi-slave : スレーブノードのみに対して LED を消灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 のロケータ LED を消灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # disable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 上のマスタ ノードのロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # disable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

すべてのメモリエラーのリセット

発生したすべての訂正可能および訂正不可能なメモリエラーをリセットするには、この手順を使用します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-all-memory-errors	メモリカードのリセットを実行します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ3のサーバー1のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-all-memory-errors
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

IPMI の出荷時のデフォルト設定へのリセット

出荷時のデフォルト設定に IPMI をリセットする必要がある場合は、次の手順を実行します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-ipmi	IPMI の設定を出荷時のデフォルト設定にリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、IPMI を出荷時のデフォルト設定にリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-ipmi
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバーの CIMC のリセット

ファームウェアで、サーバのトラブルシューティングに CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットすると、CIMC はブレードサーバの管理コントローラを再起動します。

CIMC をリセットすると、CIMC がリブートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常、リセットは 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力

キャップを超える可能性はあります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力制限を超えないようにするには、CIMC のリブートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope cimc	シャーシ サーバー CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/cimc # reset	サーバーの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # scope cimc
UCS-A /chassis/server/cimc # reset
UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc #
```

サーバーの CMOS のリセット

サーバのトラブルシューティングに CMOS のリセットが必要になることがあります。CMOS のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-cmos	サーバーの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ3のサーバー1のCMOSをリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-cmos
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

KVM のリセット

すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアする必要がある場合は、次の手順を実行します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-kvm	すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-kvm
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバーからの NMI の発行

システムの無応答状態が続き、Cisco UCS ManagerによってIMCからBIOSまたはオペレーティングシステムにNMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合には、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、シャーシ 3 のサーバー 1 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

破損した BIOS のリカバリ

非常に珍しいケースですが、サーバーの問題により、破損した BIOS の復旧が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。BIOS の復旧後、サーバは、そのサーバで実行されているバージョンのファームウェアを使ってブートされます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # recover-bios <i>version</i>	指定した BIOS バージョンをロードし、アクティブにします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、BIOS を復旧する例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # recover-bios S5500.0044.0.3.1.010620101125
```

```
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ヘルス LED アラーム

サーバー正常性 LED は、各サーバーの前面にあります。Cisco UCS Manager では、センサー故障が発生すると、ブレード正常性 LED が緑色からオレンジ色またはオレンジ色の点滅に変化します。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[Severity] カラム	アラームのシビラティ（重大度）。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Critical]：サーバーヘルス LED がオレンジの点滅になっています。これは赤色のドットで示されます。 • [Minor]：サーバーヘルス LED がオレンジになっています。これはオレンジ色のドットで示されます。
[Description] カラム	アラームの簡単な説明。
[センサー ID (Sensor ID)] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[Sensor Name] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

ヘルス LED ステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバーのシャーシサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # show health-led expand	選択したサーバーのヘルス LED およびセンサーアラームを表示します。

例

次の例では、シャーシ 1 サーバー 3 のヘルス LED ステータスとセンサーアラームを表示する方法を示します。


```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A /chassis/server # show health-led expand
Health LED:
  Severity: Normal
  Reason:
  Color: Green
  Oper State: On

UCS-A /chassis/server #
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。